国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

東樵
蓑渚

松の花

五編
中

208
15
696

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

貞操美談翠硬春三編巻之中

東都　松亭金水編次

第廿七回

勅撰集賞之の分ふ。さよ人もあれど春の春八千年ふもさりしざりけり。たゞ近曾の狂ぶふ。年ごとに年ごとに深りけん。嫁ぶ俤ともはぶ松さて代。かゝる春ふも春ふ来ふり。其執ふの西白しさて。世ふ嫁しさりけるも。たゞ二十年の昔とありね。さふ人

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

の業拙く貧窮なるものとなり貴賤あるべし。その差別一容易ねど。月日いたづら除夕の夜。普く賤しき者ども板の縁が傾きかたぶく揺きけば。乗師のうつれ自ら食む。さてその富と貴賤とを人生の上のあるのこの餘のものの体を。さまざま富るも貧るも貴賤も憂べきらぬ。さまざまの所業のかくきの。貴ハ華やげりる。富ハ両個。賤きもさまざまの所業しいさ初ぐ。

極めて貴ハ迫り。裾ハみるあ仏法。離一切を結び金。肩ハ被れて肌ハ透。縄ハ幾重。二重三重。寒々しいべうあるねど。その人品ハ。りうの。の傾ハ夕。貴人。五より来れ。風情もこもり。今月ハ。微陰。いそぐ。月中旬ハ。体を中ハ。別人。ず。の佑。寒。十日。抑。百日。計。ハ。ぬ。八九。

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

是といふ究をを匝じ。あおの非でもうくし。喰て居るといふ君
の。是せへ下手な十六むさしで喰ねへでも尻分かねへ。粉さき
毎日雨が降ちやア。居食でぷつちもさつぱりつかねへいふも
彼所死んだ方が苦しみがなくつて宜うと思へぜ。「左様となれバ
左様だけれど。死んだとてその先が。何様なりんだか誰も知ら
ぬ。まア物して苦しいうちでも生きてゐた方が宜からうな子へ。なん
ぞ左様いつて彼晩ふ。助けて貰つた彼比丘尼さんハ。あれハよそ
まア何だらう。向ふ場松が居の位院代ふ云付られると云さへ

けが松が居でも。行が居でも。あの辛い世ふ憐な女もあつく。三両
といふ金を投出して。跡もつ字。誰てあまつこその宿所を何
振もさでの娘さんぢやア。ありめへの。どんな拝みでその韓非も
まづ美しい。髪がいつでも條がなく。美女でありますせう「
左様サ自己も知らぬ彼二残寿へ来て見へバ不測な鏡
律だ。モシ彼是此の所で猿ふ渊い彼衛門さ。通る人を
あいいそ。あつても安藤な比丘尼が数つて居てハござりも不
測さ。それで。ござりまし辛ひもあるふ云て。すうへせて通り。帰戦ぢやア

国立国会図書館　松の花 5編 208-696
ガラス使用

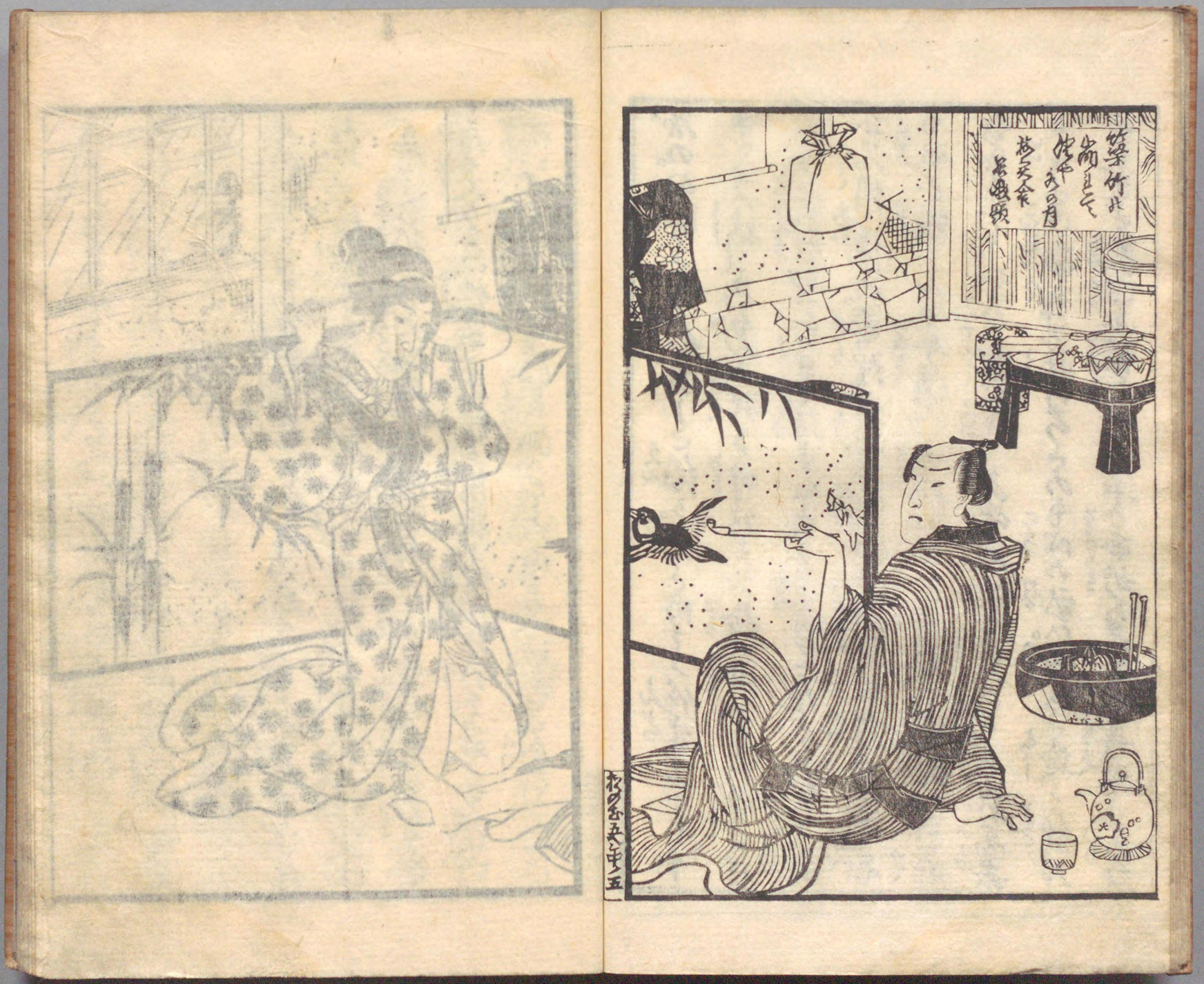
れ人腕に及び候て今様の事。一所に取かゝりて居る所。
若ひかよし人助けられし金まで甚だよくかく。今は只宜きと
氣をとらる事なし。其の家を借て家内と遊でも人目が五月
鯉登は世の中出ることなりし蝙蝠と同じよつて翁方から
して用は足し。五月十日と葺くらんに業にて金も不残に
なり其まへ翁の袋の上一本が二本の物も流して金
山上を棄て唸て走り其の内に残るのが彼処に掛て
なる法一挺もなしの人が坐して食へば山も空しと云て居

ことが實に金のいらぬ物だ。それやア左様と気に就て極
氣の毒なハ文武丈夫さ。女房おしく金もいれて九ツ手をと
世帯にやアならねへが長子一日でも思ひ詰を仕てを居し。
よく仮初にして甚てその上で嫌ごとを言へバこそ猫婆屋へ
婿入の世帯までも仕て今までの彼その暇に取つ合せと今
くバ遊びで若い個が何様で腕しろ。さぞ自己を思知つたで脇
猫にも劣つた奴と悪く云て居るぞへ。「それ/\ヨヤアモウ
知まことのサ。走り何にも瓶のやうなしい。其お根を支へるまで。人

不思議なるかな。元いとしの元親の名。今かりそめに若しの不つけ大
と愛想のこそまーさらう子。丈も案じて居るけれど。今丈
ふるつて捨方も色。私が身もう考げてとぶ。行延ふ隠れ
て居ることうて。重ふ墓参出され。縁ふようやア年
一杯ふ。暮らすまるも知れぬい所を。保めゆさんが仮初に
前と殖産の利成ーて二十あまりの金成。保り。墓参の方
の所を。たらーと孫こ逢であるーこも。そがのるい花文を
みて長くふ彼人が男と磨ぐ。男象だろう。丈ふまて福斎

屋の。お雛さんが仏様と縁。結ぶ。結ぶ時。偶然ふして仆
さるもの様ーさ。ちんふ捨ふ神ふ。ものるぐ
らう。実有がるいるーと。洋ぬ。ぬだりるーて居さも。むの様
ふ不国達ーて。義理も法も忘れて丈。他までの恩
も仇お雛さんも今頃。吾俤がーてとぞのまうふ。恨んで在
るさるや。あの様を。彩ーぐーて。既ふ具ふ出ーの上。お国者
もこーて病気。快るーるのも心の恥。悔ーて。後と歓ん
でも。まーぐ。ふ恢ひまーーず。ふ分るーて。再感ー。まう

国立国会図書館　松の花 5編 208-696
ガラス使用



国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

人おもてをさらやく〳〵ものをもへば吾儕どもわど。羅の浦いのふ
ものい。おち振るり振るり人ふ敷をぐ金されうい。方振して又
まぐまの方化ふ。竹の間まで振ても冷方がるい子へ佐へ水ぐ〳〵
その姿を。自己も狂く考げへるのサ。ぢ〳〵まう當時のざ俗
ぢやア。竹振すまぐ〳〵ちて冷方がわへぐよて方まて作せへす
ゆア。赤ふも大坂ふも。俳港明友二三個金ふ蔵ふ多して
振る人こまへ俗りやア竹振う間振。世法成乃うゆやちげへ色
文いぐ〳〵でゆふやうに立流みとふあらめへけもど。合て通法

ふゆア〳〵せへ振へサ。それふしても種縄の一限ぶるくッて四二三
長るくッちやア出るけらもめへ。方振さ子うもしゆ〳〵るいぐ
その後ハ入ませうゆ振ー。振みてをもてみちやアいつまで
立ても出ぬ赤やア赤るるい世ふ藤の見ぶ拾ていと物色見地
のかをてをさ〳〵浦ぎといへ女見ぶ男成蔡ってどういへるの
ふ見ぶ沖もとその男ぶ手て長ってさ南の方へ美をつけてこ
法を浮く業ひるぐ〳〵振沖ー。さいへるのぐぶ手へ遠て見へ
ゆくるく〳〵法を浮てぐんくふ業ふて竹へ〳〵ぐまでいろ

国立国会図書館　松の花 5編 208-696
ガラス使用

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

まとうにつるもあるまいとそへ仕て家ぐちうろ〳〵見廻て出ら
けるさいナ佐へ出るけるあい遠さまれへぐまんざ〳〵仏形でも
やらとあへ〳〵まく業にうぐ〳〵泣ちのへバ手もうく乞食に
うるンぐア一ぐうせあおさん形てうるもも乞食者さ仕方
瓶門づけも美濃乞食サとぐ明ミで人不敷で隔されへとう人
ぞうり行ああ根蓮へ出りやアーうと人不逢ふぢやアう敷を
又アとさて撫ハうにホンニ形ちちやアまうにやうぐ乞食ハ
あうう〳〵うるうてもああ根と一所うう〳〵嫌いとそて いまに

りのと佐へそうやア自もぐうて図ドうぐぐあまもへ不種
ゐ若旁とさせるのこうう〳〵ぐ頼こそ乞食ふまぐうりやら〳〵
ちやア解りちへの逆へ根ぐ行の体心も邪の毒ぐう〳〵へそ
おあ根も他人ゲまい邪の毒も行の逆へ根ぐ行のうこと才ぐ不
うりやア一生の分と佐てもあう根のあふるうう〳〵歴やアまま
ぜんまく〳〵その佐ゐう〳〵毒ぐお雑さんの見敷ゐて私ハ毒ぐ
ていうこぐ行のうハあまーうんぐア。私ゲ仕根ふ見へふつけて
もお雑さんゲ行根あうるうてお出ゐうぐらうと文へゲ行根

お勝手の方へ行てうろうろせんかいな方へ行て私も敷居の上を見まわすとさっきまで焼松の明りで見えたる人影不見出なるとい[illegible]。

ホンニ[illegible]おかめ[illegible]さっぱりでございまんと[illegible]

はる女子の[illegible]。[illegible]の数[illegible]七日過去り来て[illegible]の[illegible]

ひまつぶせば形[illegible]夕のこ[illegible]ふ迫り来て[illegible]の[illegible]

うべとも[illegible]文おつけても[illegible]祝の。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

しく[illegible]ふ[illegible]文を[illegible]五人[illegible]。[illegible]。[illegible]

祝の手元[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

慰[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]ふひろげ漢子。[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]のうも世[illegible]。[illegible]。[illegible]

[illegible]。[illegible]。[illegible]。[illegible]

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

うちそこなれて今日親もくさ〳〵迷ひ不見見えてこゝまで八見もはさ
若男小胸や男きけん。彼方へもいてすわつくと眠ると作七を
搖起し　佐〳〵　藤小姓天弟小我さぞ。丁度茶の弟イ長。飯代
も食べ俗〳〵と。例の准備小拵へ〳〵と。いそれて小弟八見と男へ
〳〵〳〵ホン三姉〳〵弟小脇さ子。今和いさ〳〵の伊子で。例よりも世さ上
ちらつと。トレ飯ものませうと持出し脇もと。弟碗八先茶ふ
せてあの番〳〵弟小習俗の清味出さ小も早く食さ〳〵て男さ
られ家法脇さ〳〵と食仕者ま。扨〳〵若る浚相の鏡小世

もの黒見。時分小ハ〳〵と碑小拵さる。こ味線さつて迷小胸と小
脇小抱えて。手拭さつて天窓小ハ〳〵門ゲ出て来ま八ヨ
何処を出ハ〳〵ゲとも。月始日ま。ちゞ所やその所と門ゲ
も。主の男さ〳〵厨やせれと。ゆ〳〵くの流行順。今八小弟ゲ男の上
小。男ひ競べて暮れたり

第廿八回

ハイ〳〵。ちやちやと来や。此頃歩行門ゲの女八。滅法美くし
ゲやうなり。ア扨〳〵歩程ゲ。ア。扨て歩程ゲ。ア。扨甘美りゲ。ア。波

国立国会図書館　松の花 5編 208-696
ガラス使用

処の先でやつてくら。此一吹べかぢやァねへ。あるやァこりゃ斥候
の者こりゃ。なら。何でも法外人のかぐりぢゃ。ちくしょう八。彼位かや
こりゃァ門づけてきびしく立派る師匠さんかあるもとる何の報い
沢ざらう八。手方仕て吹イてやれ。夫ぢゃ。彼奴ァこんなかか
鐵をこりぢらう。此ちの後も鉄指受て力ぶた。仕舞ェ呼ばれ
ぬまでこりゃ呼ばして。青ぐ〳〵まで切まで。一所まだりーゥァ歩
行ねへ。夫ぢゃ。何でも能ッ。ちゃァ仕ねへ。好ッ
の延ばを。ぢ我ェ拵へ。夫ぢゃ。肝心の能ッ

ド
洋の字ぢゃ。こんねへ。才子ぢかあるとこと。ちょと。
ちょこだこと下らァ。此頃ぢゃ。千の時ぢも稽古日止さこと。左
様。夫ぢ彼奴ァ。ぢり。ぢん〳〵して。長やぢるかぢ。ぢらァ。ぢこと
ぢ。ぢと。ぢるこの。ぢ。ぢぜ。八。左様ぢ。夫ぢ。ぢ。ぢも。ぢって。
此ぢ。ぢと。ぢて。ぢぢ。ぢと。ぢらァ。ぢ。何と。今。私。ぢ。ぢ。
ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
ねへ。自己ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。
八。左様ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。ぢ。

国立国会図書館　松の花 5編 208-696
ガラス使用

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

蓼を表でも食ふ方が恰好ぢア吉へ怪物あつて成ちやアなるまいと方
も有るの水で産湯を遣ふ。蓼ちゃ子ぢやアねへかさく新造
所へ行くく唯つたちくくて素ぢめ。今この時ふのひとるごく。
小糸が姐ちの評判よく。こゝ処でも此処でも流て居て呼びこも相
ホなりけるぞ。墨敢も死枝も。蓼ふ方を飛らるわどの花命怪
こ筋の色糸ホ。お個ぢ命けはまでぶ。繁ぢ面り遣ちども雨降
風ちの当けまぶ前意一撫ホ。有ふ行くで茶彩の代
ホ逃ちく若しこの中ホも楽しんどち。賭こ酒ちぶ撫ちホ一日

一日ちるまるの。依春の新の長くく。成初ちとも学ぶ元須。今
貴ハ月の時ちまちり。実ホ賭新の花ホ。初場をくくき
出格子の。寄ちり呼ちて。ちまぶ閉ふ行やら大勢の彩と
ふて。ふて。ぶくく。ちぶ酒宴も酣と。芸ふ中より一人の漢士
変女さん自ちちつて好ちぶあるぶ。甘呂ちつて吸せ社へ行で
おぢふちんく男ちふ此方の方ちふ。ちの縁初ちア
ハイく九ぢ一阪振りちんく男ちふ。ちア方新ちふ。此方で宜
けりやアモウ宜ちちスぢ。行ホて。お勉を先へちちて。ちやちト

紙を捨てて少人の紙うけそう。まり載きて帝の男へ接ちんと
人心づかい。探ってくれればその数を蔵千ゥ初ゝれど二茶金と
ふ手傳うざりくと。考とそるけと。あや二あるぶいるうと
ず。修りのるふ藤丸。その手格子の男ゝ押いとて。見
をモン行ってる遠でおざらまをうトのび男ハ人もれ日せ代ハ十二
る遠でも行でもれ。少れけとど此方ゝ。金とれこをハ人
ゝ行ゃァ世ゝ方おも書もよくるッちゃァ。まハ方振でも
おざらまをうが。ことを残いぶいちゃ。私が源まん方振

家
見ゝ出まんるゝ。までも多いが此中と思ハ一ゃさいまゝ男ハテサ
おるも山歩考ど。紙合百文百貫でもあるが長ゝ宜ぢゃァ
れハ。まこ文をめゝこそ抱ってる藤丸女房ふあるまのと。ま振
ゝ金とそ云のぢゃァれハ。乳遠ゝふ見て亜く振ゝ
呼せれハ。ハイ長ふモウ存ぢまゝ。ぢゃ。ぢゃ私の為ゲ
海ませんで国ゝまん男ハ。ゝ重云宜ゝハふサ。あるまを振みふ
紙ぢゝ。縦ふ家ふ巻ゝこゝ。譲ゝ仕でも副ゝ。
文ぢゝ。彼見ゝふ彼蔵ゝれハ。ゝ。まこ変女さん。自を遠ゲ。

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

万一孤り寝で居てサ。完へ坊ッて居ると。雷様の奈不敢
うも彩と杉。克肩毛へ濡でも対て。ずく早くて光丑へ吹入
へ元彩色もの。小糸い今きゝ返いべ元便日おけもばその振不
弟へ捷こて頭子と合ー。好こ不任て居ッ出ん遠へ富弁の
一節ッ。波い遠へどもり濤い雷人雨の降振い一寸ほ涙ー。
さえて月小粧家ーと。声ッ揚てかくりめる。甘笑不合い
こ注の。撥日濃ッ吹身も色も濃まで解ゆるて。逃て
地来る人こ丑不後ッ人のこをる。ヒヤく寒くいでと彩も屋

鏡ッ。上ッ一至このまこと文来こで居ッ。これ一こと出ぐさ
つそりと寒こ入ットいをり撥子を細目不わけて男へイヤ
大ッ不ッ若号く。モウ丈で宜サア帰んなへイまで踊ッ帰
ッて男一モノ涙ッ流ら出と宜ョ。ッ撥の形も解ゆるん
ど。ッ俳宜ッやッ杉。丈で泥ッ出ッ捨撥子と引ッ去
やりこ逃ッるそこんッ不ッらくと。降出んッ雨立こと。
人ッ動出ッく事ッ。教孔すッ
手ッやくこ注を。ッくこ逃ッ抱へ一イ有ッくこぎんッ一

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

喜「おていさん是を早く嗜して返しますが。佐七さん門に立て居り
佐「アイ小紫様のその宅に雨が降て来ましたが。大抵乃節
も私よしておる。傘を持て出かけやうとおもつて「ユヤ居さ
振袖へおまへさんも濡やア致ません。サア早くお這入んなさ
さい。揚ハいらざりませんハ 佐「十三そりやア今のやうな「てから
と今のやうな文に雨を降て来まし。一緒敷に泣て来ましと。
アゝ勿体なされるト茶碗に一杯温湯を呑こ胸を落ち延て
処へ来り「マアお岩さいわよ、私とお稽町の新たど

とおもひましたが内ハ大勢酒宴で。それも姉さんでありましたが。
私を呼んで当年の。お若さんを嫁とといひまして手紙に捨
つて具らう。丸てみると二朱金ある。何でも二両の金有
さうサ悪戯でするアなと遠ざかろうと顔回兵衛お取りいひますが
何でも考へといひませんでしたらう。マアと思つて弟へ挨拶だす。それ
給へ滑り出し。アノソレ傳三が書るの切を文通して丸れとの人
雨に為ると。モウ何んの臭に往つたのサア夜雨を降出す。格子
も割つちやり締まして。擂とおもつて泣て来たが。何か根も不測

国立国会図書館　松の花 5編 208-696
ガラス使用

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

ゑ　あります　せんハ　よりやこりやア　あの事の　金ぢやア　あるまい　重い
ようぐつと　第七ろ　成程さ　佐　何ぐ　甘茶加
つぐぜ〳〵　ぢイ　今者ア　お　ぜ　ぬ　ろ　れ　ろ　ア　ぢ　ぢ　や　ア　ち　り　ま
せん　ナヤ　ち　ア　ぜ　ぬ　で　ま　ま　ま　ぐ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
大　ま　ま　ぐ　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま　ま
ま　ま
ま　ま

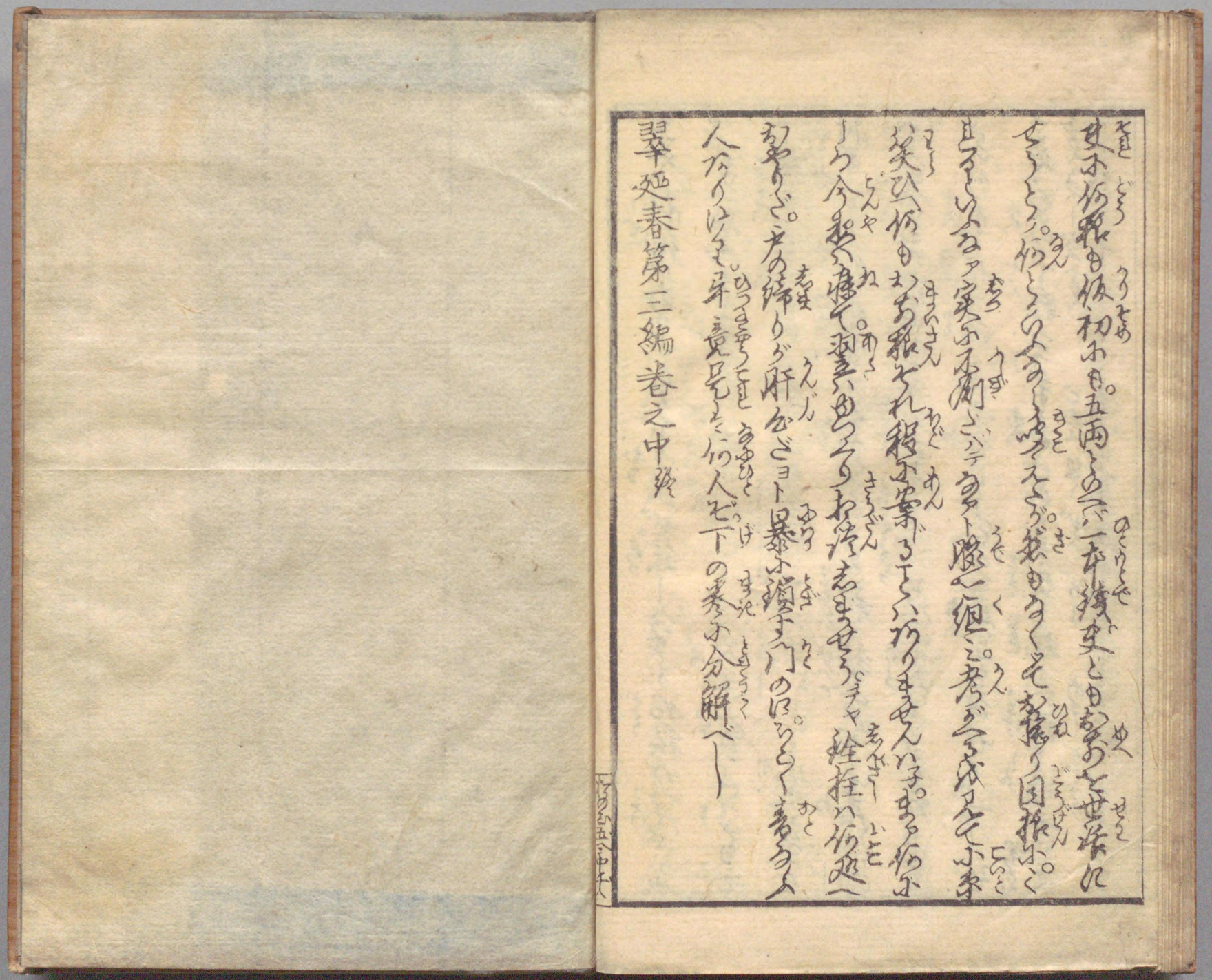
在けつぐ　その体　とつて　勝すりゝ　佐　丈ぢやア　二四　ア
あ　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま
ま　ま

数回逃しても兼松しるのいのと冷方がるのいさ
と不遠ひるの世ちらと不遠ひるの構ふてがりまんのポニ
物ちがこの通り不世ちやア。若旦那いるい子へ上方へ行ものを
縄がるのいと。貧乏しをすると亜見どろ。何でも若旦那
がりのいかりません。まま羽立い亜ふとを仕まつて仕立ふ
ちまで仕て居ましで丈ち〳〵先へ大年戎振て楽
ふ乃ふ出来ましさと朝ふ訪ぶ不来が顔佐七ふほらぐ
うち原あ佐〳〵おい法度不獄かるぐ。良ちいざらものの金

ふやア。仔細があるざらうとやんぜ。然し一ちぐ〳〵何の報のの法ざうが。
マウモツ一番んちくせるト曲ふ」佐〳〵ふ変つとるもせ
し。極下も打ちやア有〳〵おお報いたの先逆海〳〵案ずるる
性ちぐちう行り賭場不者ひぐらう。私ぐ稼者として居法術
ぶんの義者の方ちんぞふ五あや七両ぐ死ふ業つとるもかりは
ちつけ。それが何も新しの義らしのるもかふもるのせサ佐〳〵セ
つちやア有の主報みるるもちてさらうが丈と此とふ法が遠ふふ二文
二文乃ち五十二文。ちぐ〳〵五十ち百の残を業ひふ歩行門者ざらう。

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用



更ふ仮初ふも。五両ものでハ一本様ハ世界に
さうなく。仮ものゝ中ハ。ものゝ中ハ。ものゝ中ハ。
且つ。ものゝ中ハ。実ふ不動ハ。ハテ。ものゝ中ハ。
笑ひ仮ものゝ中ハ。それ程ふ。ものゝ中ハ。
ものゝ中ハ。今ハ。ものゝ中ハ。ものゝ中ハ。
ものゝ中ハ。ものゝ中ハ。ものゝ中ハ。
人ものゝ中ハ。ものゝ中ハ。ものゝ中ハ。

翠延春第三編巻之中終

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

208
15
696

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用

国立国会図書館　松の花 5編 208-696

ガラス使用